

## 「札幌」、「東京」、「福岡」



生まれてから約23年間、福岡市の、しかもほとんど同じ所で過ごしていたのですが、就職してからは、横浜、千葉、仙台、東京(新宿)、札幌、東京(六本木)と日本のあちこちに移り住むことになりました。色々な場所に住んでみて感じることは、我々は俗に単一民族と言われ、また、日本どこでも特に不自由することもなく日本語が通じることから、いつの間にか「日本は狭くて非常に均質な国」と思い込んでいるようですが、どうして自然条件や人々の気質、果ては顔つきに至るまでかなり地域によって異なっているのではないかと思うようになりました。以前、札幌出身の人が、「東京に来て同じ日本人でも随分色々違った顔の人がいるのに驚いた。」と言っていました。確かに、私自身も約2年振りに札幌から東京に戻ってみると、始めは町を歩いている人の中に色が黒い人が随分多い気がして何かしら違和感を覚えました。また、例えば風景なども地域によって随分違います。正月に帰省のため札幌から福岡まで飛行機に乗る機会があったのですが、新千歳空港を飛び立ってすぐに見えるのは雪に覆われた荒々しい山々ですが、西に行くに従ってこれが段々緑におおわれた丸い山々に変わっていくのがよくわかりました。

さて、そこで各地(札幌、東京、福岡)での生活振りを統計なども使いながら比べてみたいと思います。

まず、気候ですが、札幌に住んでの実感は東京や福岡に比べて冬が来るのが2か月早く、冬が去

るのが2か月遅いということです。実際に気温をみてみますと、札幌の11月の気温と東京の1月の気温、また、同じく札幌の4月の気温と東京の2月の気温がほぼ同じでこれは実感とよく合致しています。余談ですが、一般に考えられているのは逆に、札幌(北海道)の人は大変寒さに敏感なように思います。例えば、5月の連休でも都心にある大通公園などでは寒い日とそうでない日では人出がかなり極端に異なりますし、また、東京や福岡では一旦衣替えをしてしまうと、多少の寒さ暑さは我慢して同じ様な服装をしていますが、札幌では寒い日は冬の服装、暑い日はそれに応じた服装とその日の気温によってはっきりと使いわけをしているのには驚かされます。

次に、日頃の生活で最も関心が深い物価についてですが、札幌に住んで感じたのは意外と物価が高い、東京と余り変わらないのではないかと、都市圏としてはほぼ同じ大きさの福岡とは随分違うのではないかとということです。しかし、例えば消費者物価指数をみてみますと、平成6年で全国平均を100として札幌市103.7に対し福岡市が102.7であり、感じるほどの差があるわけではありません。では、なぜ、そう感じたのか、その原因を考えてみますと、例えば札幌ではよく札幌駅の中のレストランで食事をしていたとか、あるいは特定の品目、ラーメンを例にとりますと、札幌ラーメンが通常700円ぐらいなのに対し、博多ラーメンは400円ぐらいであることなどがその原因ではないかと思います。(こういうものが人の気持ちに与える影

総務庁統計局統計基準部

統計審査官 上 茂

響は意外と大きいようです。勿論、ラーメンの中身が全然違うので実際は札幌ラーメンが博多ラーメンより高いというわけではありません。)ちなみに、色々な所に住んでみるとわかるのですが、物価(価格)に関しては原因はよく分かりませんが、地域によって極端に異なっているものがあります。例えばクリーニングの料金をみますと、ワイシャツ1枚が札幌では190円くらいでしたが、今住んでいる六本木では350円くらいかかります。(銀座の snacks はすすきのの snacks の2.5倍?。これも確かな原因は不明?)

また、札幌に住んでみるとその寒さは聞きしに勝るものがあり、1月、2月は町中が冷凍庫(冷蔵庫ではありません。)にすっぽりと入ったような感じがします。東京では物を冷やすために冷蔵庫に入れるが、札幌では(冬には)物を凍らせないために冷蔵庫に入ると言われているのです。最初の冬は毎日灯油を9ℓくらい使っていましたが、これは東京や福岡の家庭で冬の間に使用する量の2.5倍くらいではないかと思っていました。統計上では、灯油購入世帯における1世帯当たりの灯油使用量(平成6年度、冬場)で、北海道は東京の4.6倍、福岡の3.2倍にもなっています。それから札幌で困ったのは、冬になると洗濯ものや布団はベランダに干せないことです。そこで衣類乾燥機とふとん乾燥機を買うことにしましたが、これらの普及率を全国消費実態調査の結果でみてみますと、意外なことに衣類乾燥機の普及率は、北海道の場合4.0パーセントと全国で最も低く、ふとん乾

燥機についても、他の都道府県に比べて特別に普及率が高いわけではありません。その理由を考えてみますと、わりとよく知られていることだと思いますが、北海道の場合、家の中は東京や福岡などよりもずっと暖かく乾燥していますので、洗濯物は家の中に干していればよく、わざわざ衣類乾燥機を買う必要がないのではないかということです。

さて、たわいもないことを色々書いてきましたが、どこも住んでみればそれぞれに良さがあり、例えば北海道の冬の厳しさも、それ故にその間に貯めていたエネルギーが春になると溢れ出し、色々な草花が一斉に花開いて大変に美しいというような長所にもなります。確かに転勤は大変ですが、色々な所に住むということはそれ以上に得るものも沢山あるというのが実感です。



# 平成 8 年度主要統計研修等実施計画

統計調査の資質向上と統計思想の普及高揚を図るため、統計関係者及び統計教育の指導者を対象に各種研修会を実施します。県及び中央で実施さ

れるそれぞれの研修のねらいを熟知され、多くの方々が参加されることを期待しております。

平成 8 年度主要統計研修等実施計画一覧

主催機関名	研修名	実施予定期日	実施予定期間	対象者	内容	備考	
茨城県	統計調査員研修会	8.5.23 ～8.5.24	2日	統計調査員	統計調査員の実務的な研修。	いこいの村沼	
	地方統計職員業務研修会 基 礎 門 専 門	8.6.19, 20,26,27 8.9	4日 1日	統計事務に従事する市町村及び県職員	統計業務に必要な基礎的、専門的知識を習得する。	県健康科学センター	
	統計グラフ作成指導者講習会	8.6.3 4 10	1日	小・中学校の教職員及び市町村職員	統計グラフの指導者としての知識及び技術を習得する。	下館合同庁舎 サンレイク水戸 サンレイク土浦	
	統計事務改善研究会	9.1	2日	統計調査員、市町村及び県職員	統計調査に関する諸問題を研究し、その改善を図る。		
	統計実務講習会	9.2	1日	市町村及び県職員	統計業務に必要な実務的知識、及び技術を習得する。	県議会議事堂 大会議室	
総務庁 統計 研修所	本 科	8.10.22 ～9.3.28	6か月	国、地方公共団体及び政府関係機関の職員（原則20歳以上40歳未満の者）	記述・推測統計に代表される数理統計学、人口・社会統計とその分析手法、経済統計とその分析手法、統計調査を実施する上で必要な調査と標本の理論等の科目を有機的に編成し、特に、パソコンを用いた演習、解析及び実習がふんだんに取り入れられ、理論ばかりでなく、統計に関する実践的な知識を身につける。		
	専 門 コ ー ス	統 計 学	8.8.28 ～8.10.16	7週間	国、地方公共団体及び政府関係機関の職員	平均、分散、相関、検定等の数理統計学の理論を中心として、パソコンを用いた統計解析と多変量解析の理論までを研修する。	
		経済統計分析	8.10.9 ～8.11.29	8週間	〃	経済統計を用いた分析手法を修得するために必要な講義を中心として、その基礎的理論と経済統計を用いたミクロ、マクロの経済分析手法を研修する。	
		人口・社会統計分析	8.5.23 ～8.7.10	7週間	〃	出生・死亡、人口構成、社会構造等の人口・社会統計の分析手法を修得するために必要な講義を中心として、その基礎から応用までを研修する。	
		統計実務	8.5.8 ～8.6.14	6週間	〃	統計調査に関して、その企画・設計から集計・公表に至る実際の事務や考え方について研修する。	
	専 科	短期総合課程	9.1.17 ～9.2.20	5週間	〃	数理統計、統計分析等について短期間で総合的にその基礎を研修し、統計的センスを身につけることを目標とする。	
		研究課程	8.7.4 ～8.8.8	6週間	国、地方公共団体及び政府関係機関の職員（本科課程修了者など）	高度な統計分析能力を修得するため、セミ方式による個人研究を中心として、統計の特定の専門分野についての理論を研修する。平成8年度は「経済分析」をテーマに実施する。	
		単科課程	8.8.22 ～8.9.6	2週間	国、地方公共団体及び政府関係機関の職員	特定の専門分野について、2週間で集中的に研修する課程で、平成8年度は「パソコンによる統計情報の視覚化」をテーマに実施する。	
	特別講座	課長補佐・係長コース	9.2.25 ～9.2.28	4日間	国、地方公共団体及び政府関係機関の職員（課長補佐・係長級職員）	管理・監督者として必要な統計に関する知識について研修する講座で、平成8年度は「行政と統計の役割」をテーマに実施する。	
		一般コース	9.3.11 ～9.3.14	4日間	国、地方公共団体及び政府関係機関の職員	統計の特定分野に関する基礎知識について研修する講座で、平成8年度は「物価・消費統計の見方と分析」をテーマに実施する。	
全 国 統計協会 連 合 会	一 般 研 修	8.5.27 ～8.5.31	5日	県統計職員	統計の理論と応用、統計の作成と利用方法などの知識及び技術を習得する。		
	指 導 者 研 修	8.6.12 ～8.6.13	2日	県統計関係専任職員	地方統計職員の指導育成に必要な知識及び技術を習得する。		
	統計グラフ指導者講習会	9.1下旬	2日	統計グラフの指導者・作成者及び利用者	統計グラフの指導者としての知識及び技術を習得する。		
	統計実務講習会	9.2上旬	2日	制限なし	統計業務に必要な基礎的知識及び技術を習得する。		

(統計課・普及指導グループ)